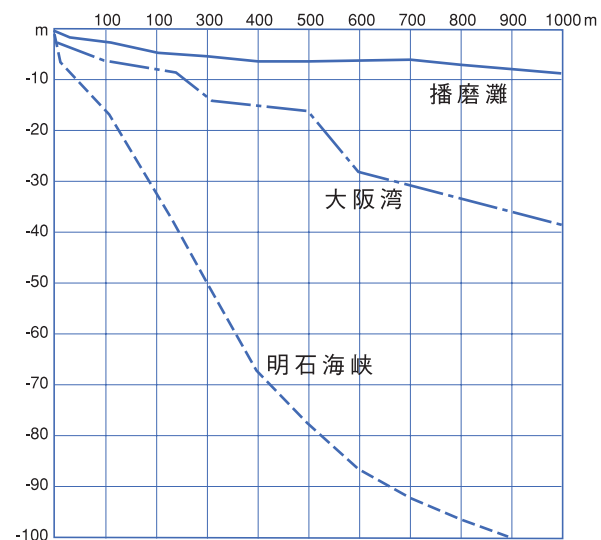
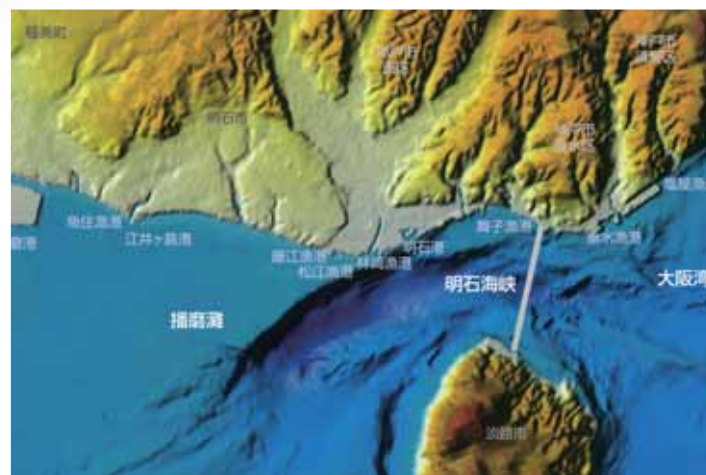


# 東播海岸の地形

東播海岸の海底地形は、明石海峡と播磨灘とで大きな違いがみられます。明石海峡側は、海底のこう配が非常に急であり、場所によっては1/10のこう配で-100mの深さまで達しています。これに対し、西側の播磨灘に面する海岸は、沖合数kmまで-10mより浅い緩やかな海底地形が広がっています。



<東播海岸海底断面図>

かつての東播海岸は、台風時の高波浪や海砂利採取などの影響により侵食が進み、典型的な侵食海岸となっていました。

下の図は、明治26年から昭和30年までの63年間の海岸侵食の程度を示したのですが、平均すれば1年間に1.0～1.5mも海岸線が後退していたことになります。



昭和33年西八木地先(無対策状態)

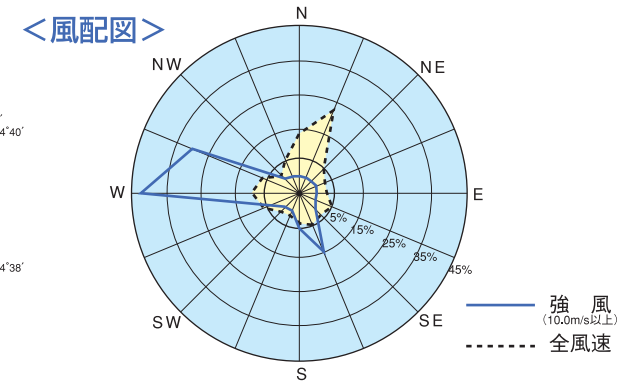
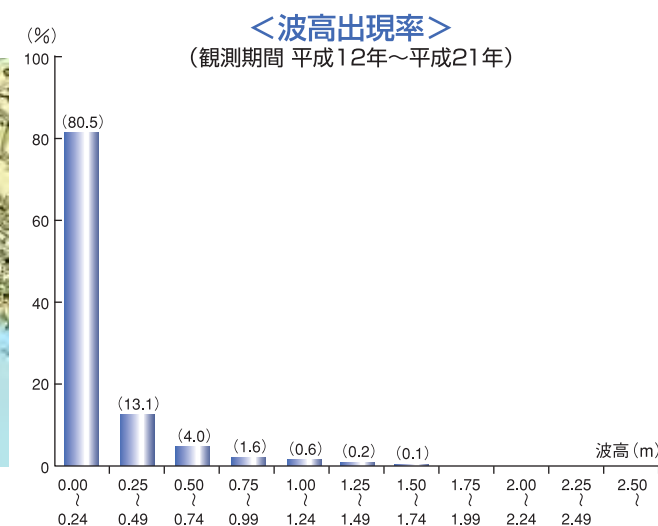


<侵食概要図>  
(明治26年～昭和30年)

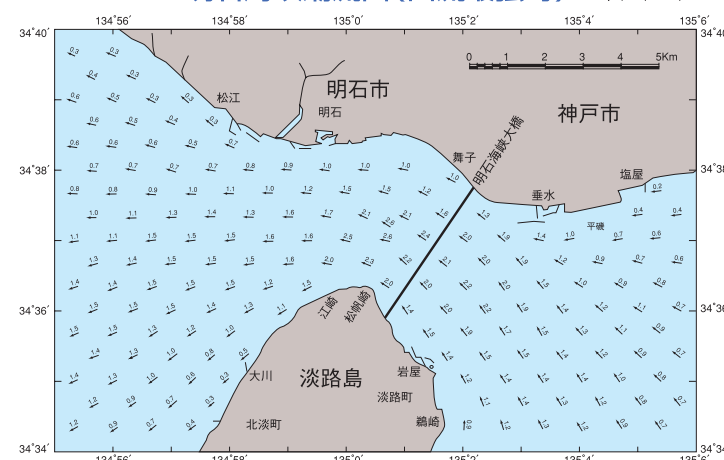
# 東播海岸の風波と潮流

東播海岸は、温暖な気候に恵まれた瀬戸内海型気候で、年間を通して風は穏やかです。波高は静穏で、0.24m以下が80.5%を占めています。

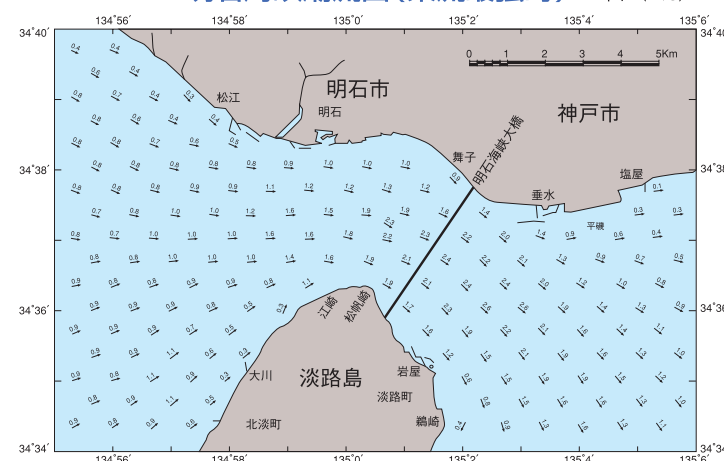
なお、0.24m以下の波高は、日本海側(鳥取)では8.0%、太平洋側(潮岬)では0%となっています。



<明石海峡潮流図(西流最強時)> 単位 (m/s)



<明石海峡潮流図(東流最強時)> 単位 (m/s)



明石海峡は潮流の激しいことで有名ですが、その速さは瀬戸内海有数で、来島海峡(5.14m/s)・関門海峡(4.37m/s)に次ぐものです。

【参考】人の歩く速さ…1.33m/s  
競泳100m自由形の世界記録…2.13m/s

